

ワークショップ

「複数回施行したカプセル内視鏡の有用性と工夫」

司会 松本 主之（岩手医科大学内科学講座消化器内科分野）

矢野 智則（自治医科大学内科学講座消化器内科学部門）

カプセル内視鏡は有用な検査だが、早く流れる近位小腸の病変や、粘膜下病変、憩室は偽陰性となりうる他、検査タイミング次第で病変を検出できない場合もある。片側のみにカメラを備えたものに加えて、両側にカメラを備えたものや、短軸方向全周にカメラを備えたものも登場した。機種の変更やバルーン内視鏡前後でのカプセル内視鏡施行により診断できる場合もある。本ワークショップでは複数回施行したカプセル内視鏡の有用性や工夫についての発表を期待する。